

河川事業

常呂川直轄河川改修事業

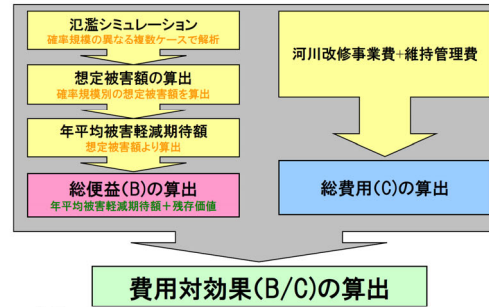
再評価(報告)

令和3年度
北海道開発局

4. 河川改修事業の費用対効果

・常呂川の河川改修事業について、事業の実施による洪水被害の軽減額と整備に要する費用の比較を行いました。

● 費用対効果算出の流れ



● 算出の条件

評価基準年度：令和3年度
事業整備期間：令和4年度～令和83年度
評価対象期間：令和4年度～令和83年度（整備期間+50年間）

総便益※(B)	便益	確認後：552億円	553億円
	残存価値		6億円
		確認後：197億円	559億円
総費用※(C)	事業費		198億円
	維持	確認後：220億円	23億円
			221億円

● 便益の内訳

項目	金額	確認後
被害額(一般資産)	103.7 億円	9.5億円
被害額(農産物)	9.8 億円	430.0億円
被害額(公共土木)	430.3 億円	
被害額(営業停止損失)	2.2 億円	
被害額(家庭における応急対策費用)	4.8 億円	
被害額(行政における応急対策費用)	1.7 億円	
被害額(事業所における応急対策費用)	0.5 億円	
被害額計[現在価値化後]	553.0 億円	
残存価値(施設)	5.7 億円	
残存価値(土地)	0.1 億円	
残存価値計	5.8 億円	
効果合計	558.8 億円	558.2億円

費用対効果(B/C)	2.5
純現在価値(B-C)	338億円
経済的内部収益率(EIRR)	10.8%

※ 現在価値化後の値。(現在価値化：便益や費用を現在の価値として統一的に評価するため、将来または過去における金銭の価値を現在の価値に換算すること。)
※ 常呂川の河川整備実施内容の変更による効果・影響を含む。

確認後：552.4億円

	全体事業
残事業(-10%~+10%)	2.3~2.8
工期(-10%~+10%)	2.5
資産(-10%~+10%)	2.3~2.8

確認後：10.7%